

平成28年度第2回 神戸市男女共同参画審議会

日 時 : 平成29年3月7日(火)14時00分～16時00分
会 場 : 神戸市役所1号館14階AV1会議室
(◆ 委員の発言 ◇ 事務局及び幹事の発言)

1. 議題

(1) 神戸市男女共同参画年次報告書新様式(案)について

- ◇ 資料3に沿って説明。
- ◆ ダイジェスト版は何部作成を予定しているのか。(会長)
- ◇ 10月の男女共同参画推進月間で活用したり、出前トークで配布したりすることも考えている。だから、1,000部作成を予定している。
- ◆ もう少し多く作成するイメージだったが、1,000部なのか。
- ◆ ダイジェスト版を作成するのはいいと思うが、配布する対象によって内容が変わってくる。具体的にターゲットを絞った方がいいのではないか。広く一般市民向けだとあまりにもターゲットが広すぎて、内容を決めるのが難しいのでは。
- ◆ 概要版に委員意見をまとめて記載し、Webに掲載するというのは、どういった目的があるのか。
- ◇ 現在の年次報告書と同様に、PDCAの関係もあるので、委員のみなさまからのご意見を聞くことで、委員の方がどのように評価しているのかやどういった方法が必要であるかを公表することを目的として、ずっと載せてきた。
- ◆ 「委員意見」と記載すると、個人的なイメージがあるので、「審議会での検討」等にした方がよい。
- ◆ 作成部数やターゲットについてどう考えているのか。
- ◇ 先ほど申し上げたように、出前講座等の研修に使うことを考えているので、例えば、大学生以上の学生に配布したい。配布の方法については難しいが、説明会等で配布を考えている。それを集計するとだいたい1,000部くらいになる。
- ◆ 市民は何を知りたいのか、何を欲しがっているのかを考えるべきである。例えば、子育て支援であれば、自分が何かをするとき、どういった事業を利用できるのかを市民目線で考えるべきである。今のダイジェスト版だと、市が計画していることを広報したいだけのようなイメージがして、市民が知りたいことや市民に知っておいてほしいことは何なのかが考えられていない。大学等で講義をするのであれば、それなりの資料が必要で、対象者に合った講義内容の資料を作るべきである。枚数も多いので、税金をどのように交付するかも含めて、考えるべきである。
- ◆ 具体的には何か構想があるのか。枚数が多いというのが、1つ挙げられたが。(会長)
- ◆ 計画があるということを市民が知っても、おいしい話ではない。市民にとって何がいいのかという視点から考えたときにどのように考えたかを教えてほしい。
- ◇ 両立のための施策を市民が知りたいということは承知してるが、このダイジェスト版は、年次報告のお知らせでもあるため、今現在、男女共同参画について市がどのように取り組んでいて、どこまで行っているかというPRをする必要がある。例えば、これから社会に出られる方に一度配ってみて反応をみてみたい。ただ、審議会として、そういったものは必要なく、年次報告から離れて、啓発用としてパンフレットを作った方がよいということであれば、事務局として考えていく必要がある。
- ◆ リーフレットに記載されている内容が、重点事項ⅠとⅡのみになっているのは、違和感を感じた。もっと、総花的にいろんなことをしていくということをわかりやすく書いた方が、市民にとってはいいと思った。
- ◆ 年次報告としての簡略版にするのか、取り組みとして実施していることを多少入れるのかでは、方向性や内容も変わってくるが、いかがか。(会長)
- ◆ 市民向けに配布するという報告書の印刷物を見たときに、これを渡されて市民にとってどんなメリットがあるのかと思った。見開きに重点事項ⅠⅡのデータがあるが、これ自体は報告ではない。計画を立てたときのデータを再度引用しているにすぎない。そうすると、中を見開いたときの記録をみても、例えば、どこが表彰されたというのをみても、男女の多様な働き方がどうにかなるものではない。あるいは、誰かが何か講演をしたという写真を見たところで、何か役に立つわけでもない。DVで橋の色が変わったということを見たからといって、DVの相談をしようかということになるわけでもない。つまり、これは過去にあったことを神戸市が並べているだけで、この文書自体配布する意味がない。よって、このような印刷物は不要だと思う。書くのであれば、今見る時点で市民の方たちが市政を理解したり、利用したり、自分が一緒に貢献していけるといった新しい情報が必要である。だから、もし報告書の形で書くのであれば、中身を書く。こんな講演会をしていて、こんなことが学生さんたちにとってキャリアデザインしていく上

- で役に立っているということを書くべきであるが、恐らく、この紙の中に収まらないであろうと思う。そういう意味では、この方向性は無理なのではないかと思う。
- ◆ 行政の方としては、「こんな重点目標を持ってこうやって進めている」ということを知ってほしいという気持ちがあるのもわかるし、何人かの委員のご意見にもあったように、新しい情報や市民がどうアクセスしていけるかがわかるようなリーフレットの方が有効ではないかという意見もわかる。他の意見をもう少し伺いたい。(会長)
 - ◆ 先ほどの意見の補足として、報告ということの意味は、計画を立てて事業を実施した結果、問題としていた課題がこのように変化したという結果を書くことである。それに該当する部分がこの報告書には含まれていない。つまり、最初のデータは主婦の有業率が低いというデータが少し出ているだけである。だから、これをどんなに今見ても、企業を表彰したり、講演会が実施したことによって有業率がどうにかなったという報告をできないと思う。労働の分野を重点事項にもってきたら、どうやって結果に繋げるのか、働きかけができるのか計画を立てる時にも申し上げたが、結局「ワーク・ライフ・バランス社会の実現」という課題を挙げて、その目標にどう近づいたのかが、残念ながら報告できない形になっている。重点事項Ⅱはそれに比べると、相談件数がどうなったかを報告できる。だから、もう少し具体的にイベントとかではなく、市の事業としてこういうことをした結果、相談件数が増えたとか、このように生活がよくなったとかがあれば、事業に対する市民の理解を得やすくなるのではないかと思う。
 - ◆ 見開きのページに、アウトプットが書いているが、みなさんがおっしゃっていたように、むしろこの重点項目について今年度どんなアウトカムがあったかを書くべきだと思う。そのアウトカムに関しては、概要版の方に推進目標、成果指標をとって入れているので、何がどうできたかという中身の見開きについては、この成果指標として入れているわけなので、見開きの部分には、成果目標の数値がどう上がったか下がったかを入れた方が意味のある報告書になるのではないかと思った。そもそも、条例で定められたこの審議会というのは、年次報告でその進捗を審議することがミッションであるので、審議会の中で議論する責務がある。全体のことをまとめるならば、概要版に記載している成果が進んでいるのか遅れているのかということについて、この審議会でも議論すべきであるので、少なくとも、リーフレットの見開きページのインパクトについては、わかりづらいように思う。
 - ◆ 否定的な意見が多いが、市がお金を使ってこれだけたくさんの人を呼んできて、議論し、何をしているのかということをも市民に対して説明する義務がある。そういう意味では、こういった資料をつくることの意義はあるのではないかと思う。内容については、改善していく必要があるが、製本するのではなく、ホームページか何かで掲載する方がいいのではないかと思う。内容については、先ほどのご意見と同様で、今回はじめて配布するということだが、現時点での内容だけでなく、重点事項ⅠもⅡもこの数年間、長い期間をかけて議論してきたと思うので、例えば、10年くらいをとって、重点事項Ⅰならば、ワーク・ライフ・バランスという意味の周知度であれば、あがってきていると思うので、時系列で示して、その間に、市がどういう取り組みを行ってきたかというのを吹き出しで書き示す方が初めて見る市民にとってはわかりやすいのではないかと思う。
 - ◆ 書き方として重点事項と出すよりも、「このことに関しては、こういう風に変わり、現状はこうです。このことは重点事項Ⅰに含まれます。」といった書き方が、市民にとっては読みやすいという意見であった。(会長)
 - ◆ 報告書ありきではなく、このようなテーマにすると男女の部門、働き方や生き方を認められるワーク・ライフ・バランスという社会の実現という目標を達成するために、まず民事法制から入った方がいいのではないかと思う。ワーク・ライフ・バランス社会の実現を邪魔しているものを洗い出して、1つ1つ進めていけば、結果的に合法になったということが出てくると思う。現状を冷静に分析し、阻害しているものを撲滅していくことによって、おのずからワーク・ライフ・バランス社会の実現の方向性が見えてくるのではないかと思う。まずは、問題点の洗い出しをし、何回も議論をすることによって、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けての答えが出てくるので、報告書がつくれるのではないか。最初からこういう会社でこんなことをしたというよりは、現時点における市民社会の問題点を洗い出し、それに対してこういった施策をしたからこれだけ進歩したというサイクルができるように思う。これまでの話は、漠然としているように思う。
 - ◆ 事務局の方でいろいろとディスカッションしながら、ここまでもってきているが、委員の方の意見としては、不要なのではないかという意見や中身を少し変えた方がいいのではないかという意見になっているが他に意見はないか。(会長)
 - ◆ 年次報告書が要るか要らないかという議論をするのではなく、年次報告書をつくるということをも前提に、どういう形で作るかというのが、今日の議題だと読めるが、そもそも作るか作らないかも含めて議題になっているという理解であっているか。
 - ◆ もともと過去からの年次報告書は必ず作らなければならない。その方法として、中身を

- どのような報告書にするのかということである。(会長)
- ◆ 作るということを前提として、今回は紙ではなく、基本的にはWebベースですというのが事務局の提案だと理解している。そのねらいは紙で印刷しても誰も読まないのではないかということだと思うが、そういった意図があるのであれば、Webで出すというのは1つの方法としていいのではないかと思う。もちろん、Webに出せば自動的にみんなが読んで活用できるというほど甘くないのも承知している。一方で、そのWebで出す方法として、概要とデータと推進状況の詳細と3つに分けるということで、興味のある方にとっては、詳しいところも読めるし、全体がみたい方は概要を見ればいと思う。データに興味があればデータを、現状に興味があれば全体を見るという意図はわかる。さらに、それに加えて、重点事項として、重点事項Ⅰがワーク・ライフ・バランスで重点事項ⅡがDVをダイジェスト版で切り出すというのは、よくわかることではないかと思う。一方で、ダイジェスト版は、そもそも重点事項Ⅰの背景がどうだったかというのと、1年間何をしてきたか、その結果としてどう現状が変化したかという構成である。今回の資料では結果が空欄のため、余計わかりづらいが、「このようなセミナーをしました、いきいき事業所の表彰をしました」といった結果やなにがどう変化したのかがきちんと埋まっているはずである。簡単に変化が起きると甘く考えているわけではないが、実際ワーク・ライフ・バランスを企業の中で進めようとしても、簡単にダイレクトな方法はないため、こういうモデル企業を表彰することで、他の事業所もこういうワーク・ライフ・バランスを具体的にどう進めたかを見てもらうとか、経営者の意識改革を進めるとか、女性のキャリア化を進めるといった地道なことをするしかないので、1つの手段ではないかと思う。もちろん、この写真が適切かという細かいところについては、まだまだすべきことがあるが、意図はわかる。
 - ◆ いろいろとわかれたが、もう少し事務局の意見を聞かせてほしい。(会長)
 - ◇ 初めてこういう形に変更しようということで、相談している。年次報告書は条例で作成するようになっていたので、作成する。さらに、紙ベースではなく、Webベースにするということについてもこだわりたい。ただ、ダイジェスト版をどうするかという点、年次報告としてのダイジェスト版がいいのか、同じ印刷物を刷るのであれば、男女共同参画の啓発資料的なものもいいのかについては、事務局として特にこれでないといけなと執着しているわけではないので、Webへ誘導するような一枚ものにするという考え方もある。また、全部が知りたいといった話もあるので、資料を集めてまとめていく上で考えていく。繰り返しになるが、Webで公開するとか資料に出るような大事な部分についてはそのようにしていく。市民へ配るものについては、相談したいと思う。
 - ◆ 初めての取り組みですので、試みるのが大切だと思う。できれば、手元に残るものにして欲しい。具体的な進捗を報告するものなのか、取り組みの全体感をもってもらうものなのかというのは大事なことだと思う。これまでの話を聞いていて、取り組み全体感に関心を持ってもらい、学生さんに対しては手元に残して、今後何かあったらここを開こうと思ってもらえるものにしてもらいたい。
 - ◆ 今までの自治体の傾向としても、昨年したことは今年もするということが往々にして起りやすい。だから、初めての試みというところでいうと慎重に考えてした方がよい。
 - ◆ 中身の検討をしてほしいというのが、委員のほとんどの総意である。大学で配布する場合は、学生にあったものを提示したらどうかということである。県の男女共同参画センターでは、教育関係に進む学生に対しては、教育をメインに、兵庫県が取り組んでいる現状のわかる資料をつくり、その都度渡しているということがわかった。経済の学生に話をする場合は、経済的な視点から、工業だったら工業的な視点から、引出しはいくらでもあると思うので、学生向けに神戸市がしていることを知ってもらうとよいのではないか。とにかく、ダイジェスト版については、一般向けになるので、その中身をどうするか考えていけばよいと思う。Webに掲載する方についても、同じものを概要版として乗せるのではなく、ある程度積み重ねていったものの評価や結果としてこのように変化したということも含んだような資料がいいのではないかという意見もあったように思う。(会長)
 - ◇ 1つだけ補足で説明すると、学生用にこれだけで提案するわけではなく、当然それぞれに応じたパワーポイントの資料は作成する。それにプラスして、今神戸市の男女共同参画として配布できるものがないので、それに匹敵するようなものがあればと考えている。今後、今いただいたご意見のように一般市民の方が興味を持っていただけるような資料を考えていきたい。
 - ◆ ダイジェスト版がWebを見てももらうためのきっかけになるように配布するということが、そういう目的であれば、ここには詳しい内容を書かず、ダブルスマイルやすくらむKOBÉのリンク先と困ったときの電話番号だけを書いておくのもいいのではないかと思う。関心のある方はホームページをご覧くださいとし、リンク先を貼っておく。そして、都合により自宅でパソコンを使われない方に対しては、連絡先を記載しておいて、

- 個別に印刷したものを送付するというのはいかがか。
- ◆ この見開きA4、8ページも不要であるということか。(会長)
 - ◆ A4の裏表1枚でいいかもしれない。
 - ◆ ホームページのリンクと電話番号を書くだけでいいと思う。内容を詳しく載せてしまうと、内容を見て興味ないと思う方も出てくるので、それぞれの興味ありそうなところをクリックしてもらうようにすればよい。パソコンで操作ができない方については、市で印刷したものを送るので、ご連絡くださいとするのも1つの方法ではないかと思う。下手に内容を載せると、「これは私が求めているものではない」や「重点項目はこのⅠ、Ⅱしかないのか」という疑問がわいてくると思うので、ホームページへの誘導に使うのであれば、そのようなものでいいのではないかと思う。
 - ◆ それであれば、4倍の4,000部刷ることができるということになる。(会長)
 - ◆ すくらむKOBÉは、市民向けに年2回発行されているが、いろいろな行事をしていることがわかる内容であるし、いきいき事業所も載っているのだから、これを参考に、そういった事業所にヒアリングに行ってみようかと思う方もいるのではないかと思う。ただ、どれくらいの方がアクセスされているかは不明。
 - ◆ そのとおりだと思う。神戸市の男女共同参画計画に基づいて、こういった審議会もあるので、まずは知ってもらえたらと思う。その中身については、当然ホームページに載っているし、このダイジェスト版以外にパワーポイントで説明をすればいいと思う。だから、ダイジェスト版をつくるのであれば、シンプルな内容で導入になるような形がいいと思う。
 - ◆ この件については、議決せずに事務局の方に返す。その他の別紙資料1、2については、これでよろしいか。先ほどの委員意見というところは修正するとして、このフォーマットでいってみようというところだがよろしいか。ただ、事業内容や担当課によっては、ページをはみ出すということもあると思う。(会長)
 - ◇ ページについては、変化していいかと思うが、今はダミーで入れているので、このとおり2ページに収まるとか3ページになるとかというところまでわからない。内容によって、当てはめていくことになる。
 - ◆ これこそ、Webの概要版を目次に近いものにして、そこから詳しいのに入っていけたら一番見やすいように思う。(会長)
 - ◇ Webになったら、男女共同参画の年次報告書であるので、男女共同参画のそれぞれの基本目標や方向性をリンクさせるような形になるかと思う。細かい技術的なところはまだわかっていないが、多分、pdfを何枚かにわけて、飛ばすような作業なるのではないかと思う。
 - ◆ pdfでしているのか。
 - ◇ 恐らく、ホームページであげるときは改ざんされないように、ほとんどのものをpdfにしているかと思う。ワード等にしてしまうと、変えてまた入れられる可能性があるのだ。
 - ◆ この別紙1と別紙2についての質問である。これまでの報告の中には神戸市のこれまでのデータの推移が最初に書かれていたが、それも書かれるとういうことか。
 - ◇ データ編で追いかけていきたいと思う。なかなか神戸市のみデータは少ないこともあり、県になるかもしれないが、具体的なデータを入れたいと思う。
 - ◆ 今までと変わらないということか。
 - ◆ 在版の年次報告書のデータ部分は今までと同じで、年次を追うということである。(会長)
 - ◆ 別紙1と別紙2に関して、pdfにするときに、1つの大きな文書にするのではなく、飛ばせる箇所を埋め込むことで、参照ポイント、例えば基本目標2の具体的施策についてはどうかという目標のタイトルのポイントを埋め込んで、かつ網羅的に計画の柱がどうなっているのかという見開きのようなものがあり、この計画についての方針はどうなっていて、タイトルの施策はどうなっているのかという見開きの、鳥瞰的なものをまず用意して、そこからとべるような工夫をしてほしい。せっかく紙媒体でないので、リンクを上手くはって鳥瞰図も見られて、細かいところもとれるというものにしてほしい。話は前後するが、リンク先をダイジェストするのであれば、そのQRコードを入れておくのも1つの方法である。そうすると、スマートフォンでそこを読ませることで、該当箇所が詳しく見られることになり、ダイジェスト版は鳥瞰的なものであればいいと思う。
 - ◆ 全部載せなくても、QRコードでリンクを貼ればよいということであった。技術の方と話す必要があるが、例えば、リンクを貼り、施策の体系からとべるようにするとよいということであった。(会長)
 - ◆ 今、パソコンよりもスマートフォンの方がはるかに利用率が高いので、基本はQRコードを読み取ったら飛ぶようにすればいいのではないかという案である。
 - ◆ これは28年度の年次報告書であり、これをWeb上に載せるということだと思うが、読

んでいても、どこがどういう項目になっているのかよくわからない。また、同じように Web 上で、188ページも載せるということになれば、果たして、どれだけの人が本当に一生懸命読んでくださるのが疑問である。書き方を従来の報告書から少し進歩させて読みやすく鳥瞰しやすいということを心において作ってほしい。

- ◆ 年次報告書は、なかなかパターンを変えることができないので、できれば、あすてっぷのページにいけば、女性、子ども、男性、自殺等のキーワードがあって、そこをクリックすれば、繋がるというようにすれば、楽しく、若い人がよく見るかなと思う。
- ◇ できるだけ読みやすいものをつくりたいと考えている。一つの啓発になるのであれば、興味をもち、変えていこうと思ってもらえるようにしたいと思う。
- ◆ 市民が関心をもって、この計画だけを読むということはあると思う。だから、計画が pdf になっていても読まないし、ましてや、その年次報告書を最初から最後まで読むということもあまり考えられない。読むとすれば、何か問題にぶつかったときに、どこか市の中で相談できる場所があるのではないかと、そういった経験を基にして計画を見るのではないかと。例えば男女共同参画計画の中に、この部門については市役所のこの課でこういった事業をしているといったリンクを貼りつけることで、所管課等を Web で確認できる。計画そのものに影響するわけではなくても、男女共同参画に関わる事業などにアクセスしやすくなることで、計画に市民が接する機会も増えるのではないかと。Web サイトの載せ方についても検討してほしい。
- ◆ 神戸市がつくっている年次報告書のデータについての話があったが、計画を立てる際にも話したように、PDCA サイクルを回す上で、必ずデータが必要になってくる。こういうことがあったから、こういった計画になったということについて、紙媒体であれば、あっちこっち見なければならぬという状況になる。神戸市は結構そういったデータをきちっと入れているという点については、他市に比べて非常にきちんとしていると思う。他のいろいろな報告書でもそうなっているように、資料と書かれたところをクリックすることでわかるような報告になると市民の方も納得いくのではないかと。データ部分を落とさずに、計画の中にとべるようにしてほしい。

(2) 平成29年度予算（案）について

- ◇ 資料4に沿って説明。
- ◆ 資料4の予算について、何か質問はないか。（会長）
- ◆ DVの(3)母子並行グループカウンセリングについて、平成28年度の参加者は何人であったか。
- ◇ たくさんのグループを行うことはできないので、連続講座だと7組であった。募集は8組であった。
- ◆ 予算の(1)キャリアデザイン教育の講義のようだが、今、就業に入る学生たちは過労死の問題や長時間労働で健康を損なうというようなことが社会問題になっている。キャリアだけではなく、ワーク・ライフ・バランスを自らつくっていく力をつけるという意味で、リーガルテラスや私生活の充実や健康も含めた講義にならないかと思った。そのキャリアデザインだけを打ち出すのは、必ずしも女性の活躍推進になるとは限らないと思うが、いかがか。
- ◇ キャリアデザインという言い方がまずかったかもしれないが、当然ワーク・ライフ・バランスやどう働きたいかといった形で、どのように社会生活を充実させていくかという内容もこれまでのプログラムの中に入っていた。今年度のプログラムはこれからであるので、先生方のご意見も取り入れていきたい。
- ◆ キャリアデザインに関する講義だけではなく、就業してから必要なリーダーシップやコミュニケーション能力といったことも含めて、社会人としてのスキルアップのプログラムとなっている。今年は学生に企画してもらおうということなので、少し変わるかもしれないが、おそらくその辺りは網羅されると思う。
- ◆ 法律ができて1年目であるから、まだまだこれからだと思う。ここに書かれていないが、LGBT関連のことで何かあるのか。（会長）
- ◇ LGBTについては、人権推進課を中心に今年度各課の理解も少し深めているが、男女共同参画課としては、小学生用の副読本「できることいっぱい」の教員用指導の手引きに、今回改訂に伴って、LGBTに関する記事を加えた。今まだ印刷中で配布することはできないが、会長にもお手伝いいただき、教育委員会と人権推進課とともに改訂した。
- ◆ もっと要求したがこれだけになってしまったのか等、予算が足りているのか足りていないのかが見えない。例えば、学童保育については全然足りないと実感しているが、予算案では、昨年度と比較して減っている。これは、実際はもうそれほど要求がなくて、これくらいでいけるだろうというのか、先ほどのDVの話のように、7組という枠は少なく、本当はもっと参加したい人もいるが、今はこれくらいで仕方がないということなのか。予算が正しいかどうかについて、ここで示されてもわからない。

- ◆ 足りているのか、足りていないのか。(会長)
- ◇ 担当局としては、いろんなことをしたいということで要求しているが、市のトータルとしては、何を一番優先するかという問題も出てきている。結果として、私たちの力不足というのものもあるかもしれないが、予算はこのようになっている。ただ、例えばインターネットを使ったものということもできるので、それをしていく中で、少し補っていけるところはあると思う。
- ◇ 学童保育の予算について、担当ではないので正しく申し上げることはできないが、平成31年度までに小学校6年生まで小学生全てを受け入れるということで、施設の拡大に取り組んでいる。待機児童と比較しておっしゃっている部分もあると思うが、学童保育については、基本的にある程度施設があって、そこを広げていくとか、改修していくとかというような部分で、どうしても児童館に整備できない場合、学校の施設を借り上げるとか、民間の力を借りてということで、保育と比較すると一から施設を作っていくような感じではないので、予算の差がある。一応、目標を目指して要求している額は配当していただいている。
- ◇ 28年度の予算については、補正予算を含んだ額になっている。比べ方が少し平等ではないかと思う。28年度に少なかったものに対して、補正予算でこのようになったということで、学童保育は説明したように、神戸市もがんばっているいろいろなところにつくっているという話を聞く。
- ◆ ワーク・ライフ・バランスの(4)で、健康オフィス神戸事業の推進というのは、何をするのかよくわからない。計画の進捗を見ている中で、具体的にどのようなことをするのかというのは、次年度への評価になるので、教えてほしい。
- ◇ これは、経済団体からのご要望があり、健康経営ということも考えていきたいと思いますということになった。1つは、職場環境の改善について、どういったことができるかということと、もう1つは、その職場環境の改善が、例えば、鬱の改善であるとか精神的なプラスに繋げるために、どのようなことがあるのかを考えていきたいと思っている。これから少し事業案について具体的にしていきたいと考えているので、今ここでこれをしますとということまで煮詰まっていない。
- ◆ 何をするのかわからないのに、予算がついたということで少し驚いているが、ついたからには最大限いろんなことをしていただきたい。産業保険の中では、昨年度からメンタルヘルスの部分というのが随分変わって、そのことなのかと思ったが、また具体的なことがわかれば教えてほしい。
- ◆ 2の(3)、ワーク・ライフ・バランス推進事業のところ、1行目に仕事と子育ての両立を考える女性のためと書かれているが、女性に限定しなければならない理由があるのか。男性が来られてもいいのではないかと思うので、質問する。また、もう1つお願いがあるが、2番目のいきいき事業所について、もうかなり長い期間してきて、たくさん表彰企業があると思うので、ぜひデータベース化して、先ほどリンク化するという話もあったが、リンクで飛べるようにして、学生がそこにアクセスできるような環境になるといいと思った。データベース化するのであれば、予算もいるかもしれないので、これはお願いである。
- ◇ 「両立を考える女性のための」というのは、NPOとの関係で女性のための相談室という形になっている。男性の相談については、なかなか予算がとれなくて、本来的には、悩んでいる男性は多いと思うので、今後予算の中でも、男性相談ということについては話していきたいと思っているが、現状は、県の男性相談に頼っている状況である。2つ目のこうべ男女いきいき事業所についてであるが、これについては、PRできていない私たちが悪いが、ダブルスマイルというポータルサイトを立ち上げており、その中で、簡単な内容ではあるが、リンクが貼れるようになっている。今後は、ダブルスマイルをもう少しPRし、見ていただけるような工夫をしていきたい。そこにきていただくための工夫として、神戸の見どころであったり少し遊び的な部分を含めることで、誘導するようなことも考えていかなければならないと思う。
- ◆ 国がしていることなので、神戸市とは関係ないかもしれないが、くるみんやプラチナくるみん、女性活躍推進のところ、表彰企業が県内にあったかと思う。全部神戸市だったと思うので、その辺りも明らかにしてほしい。
- ◇ ダブルスマイルでは、かなりリンクを貼り出しさせていただいているので、企業向けであれば、どういう助成があるかやどんな国の施策があるかを掲載しているし、あるいは、働きたいということであれば、ハローワークへのリンクも貼らせていただいている。それをどう使っていただけるかやどうそこにきていただけるかについては、今後の課題である。こちらについては、ポータルサイトの予算だけが計上の中で、取れているという状態である。
- ◆ ダブルスマイルというサイトか。
- ◇ はい。広めるために、男女共同参画推進会議という各団体さんにきていただいている

会議や企業セミナーでチラシを配布しており、そのチラシの中にQRコードを入れている。また、いろんなイベントをした際には、写真をアップし、そこからとれるように、その都度QRコード付きのチラシを配布している。

- ◆ 以前にも少しお話ししたが、学童保育や待機児童について、小学校や中学校の空き教室を使って増やすと場所を一から作らなくてもいいと思う。文部科学省VS厚生労働省という壁もあるという話も伺ったことがあるが、全国でしているところがないので、神戸市が先駆けてしていくとよいのではないか。それで成功すれば、全国に広まっていくと思うので、全国の待機児童が減ることに繋がるのではないかと思う。とても大変かもしれないが、できることがあればお手伝いする。一からつくるとなると、近隣の反対やお金がかかるという問題もあるし、保育士さんの確保という問題も残っているが、場所を学校の空き教室を使おうというのはいいアイデアでないかと思う。
- ◇ 学童保育ということか。保育所ということか。
- ◆ 保育所のかわりということである。今、児童数は減ってきていて、使っていない教室があると伺っている。空き教室に少し改装は必要かもしれないが、保育所を一からつくるとなると土地の確保や近隣の方の反対の問題等があると思うので、学校の空き教室を使えばいいのではないか。そうするとお兄ちゃんやお姉ちゃんも子どもたちと遊ぶ機会があるし、イクメンの育成にも繋がるかと思う。
- ◇ 保育所や学童のニーズがあるところは、小学校でも空き教室が少ない。学童保育も拡大したいが、小学校がいっぱいだから利用できないといったように、地域のミスマッチがある。逆に子どもたちが少ない地域は学校や児童館も空いているので、6年生まで受け入れ可能である。その辺りが上手くマッチせず、難しい状況である。
- ◆ 小規模の家庭的保育は増えているのか。（会長）
- ◇ 小規模保育は順調に増えている。
- ◆ 予算案について終わる。その他に質問はないか。（会長）
- ◆ 重点事項の中のワーク・ライフ・バランスの推進のファミリーサポートセンターについてだが、先週の3月3日に大阪の八尾市で提供会員さんが5ヶ月のお子さんを預かれていて、お子さんがうつぶせにして亡くなられた。提供会員さん自身が、4,000万円支払うことで和解した。20年弱前に、神戸市のファミサポのことを研究した時には、ライフケア協会さんがそういうことを始めていて、その時は利用会員さんが直接提供会員さんにお支払いするのではなく、ライフケア協会に払って、ライフケア協会が謝礼を払うという関係をとっていたと思う。これは恐らく、個人の会員さんが4,000万円の損害賠償をするというようなことをしたくなかったからではないかと思う。今、例えばこういったことに備えて、神戸市のファミサポではどういうふうに行っているのか。八尾市の場合は、当事者間での費用を払うという形にしていたので、提供会員さんが直接賠償したということになった。ファミサポは、ワーク・ライフ・バランスを進める上で、非常に重要な施策だと思うので、今どんなことを始めているのかを教えてください。
- ◆ 賠償責任保険が、どう保護されているのかということか。（会長）
- ◆ 八尾市の場合は保険が使えなかった。保険は掛けていたが、事情が明確化されなかったので、保険がつかえなかった。こういうときに、もし、協会を介してしているのであれば、恐らく団体側の責任になるのではないかと思う。今、どうなっているのか知りたい。
- ◇ その件については、問い合わせせてみて、改めてお答えする。
- ◆ この間、ファミサポの受け手側の研修講師をしてきたが、その時にも病院や怪我とか何かあったときの応急処置について話している。調べるときには、受け手側の講習内容についても併せてお知らせしてほしい。
- ◆ 先週の事案で提供会員さんになろうという方が減ると思う。そういったことも含めて、神戸市ではそうならないよう、対策や講習も含めてどんなことを考えていくのか知りたい。多分、有償のボランティアさんがなくなると思うので、意見等教えてあげたい。
- ◇ 少なくともケア施設等いろいろあると思うが、ファミリーサポートセンターの現状について調べて、改めて資料をお渡しする。
- ◆ 神戸市は婦人大学がずっと続いている。名称に関しては、ずっと懸案事項であるにも関わらず、なんの返答もないし、議論をした形跡もない。内容については、素晴らしいことをしていることを十分了解しているが、29年度はぜひ名称について検討してほしい。
- ◆ ネーミングということについてだが、神戸市の直営ではないのではないか。（会長）
- ◇ 歴史をひもとくと、神戸市の婦人団体協議会があり、女性のパワーメントの一つとして、そちらの方とある意味協力し合いながらつくってきた。母体の方が、女性協会ではなく、婦人団体協議会という名称であるので、少し難しいところもある。
- ◆ 婦人団体協議会が主催している団体。

- ◆ 主催団体の名称に踏み込むつもりはないが、例えば老人大学というのはいくはないので、シルバーカレッジにしたように、世の中に向けてイメージであったり、特に男女共同参画の場合は、婦人という言葉についていろいろあると思う。しかも、計画の中で、事業計画に載っているということも含めて考えると、検討すべきである。名称というのは、言霊であるから考えてほしい。
- ◆ 審議会でそういう話題が出たということを伝えていただけたらと思う。毎年行っているが、ずっと専業主婦をしてきた方が多くいる。それが悪いわけではないが、市の条例や計画の中でそういった話があるということを伝えていただきたい。（会長）
- ◆ では、これで閉会とする。（会長）